

一学期 交わりに参加する生活

第2期 (6月~8月)

期題「たのしい仲間」

- \*自分以外にもすてきな仲間がたくさんいることを知る。
- \*先生、動物、花、自然界(風、雲、星等)、季節の変化などとの関わりを通して自分で出来る事は自分ですることの楽しさを学んでいく。



クローク・・・衣替えとなり、幼稚園児はポロシャツからTシャツへの着替えが増えたり、幼保共に夏用遊び着のボタンを留めたりすることが加わりました。年長児が優しく手伝ってくれたおかげで、手順を覚えていきましたが、年少児の中にはまだ遊び着の小さなボタンが留められなかったり、汗ばんだTシャツが脱ぎにくい子があります。また、各コース毎に、水遊びを楽しみながら、丁寧にたたむ習慣も少しずつ身につけてきています。年中、年長児は、小さな子の手伝いやお泊り保育などを通して、身支度を短時間でしようとする自覚も芽生えてきています。これから幼稚園児は長い夏休みとなりますし保育園児も保護者の夏休みにはプールや海、汗ばむことで着替える機会が多いですので、ご家庭でも自分で丁寧に身の回りのことが出来るように見守り、励まし、応援していただければと思います。



絵のコーナー・・・登園後の身支度を済ませるとクレヨンを持ってスムーズに席につき、思い思いに自分の好きな絵をゆっくり描いています。なぐり書きが多かった年少児はお父さん・お母さんの顔を描き、プレゼントしたのをきっかけに少しずつ自分のイメージしたものを描けるようになってきました。年中・年長児は日々の体験を描いたり、いただいた沢ガニ・ホタル・スズムシを観察しながらゆっくり丁寧に描いています。子どもたちの作品を飾ることで自信につながり、飾ってある絵から刺激を受けている子どもたちです。「たのしいな、うれしいな」というテーマで「住友生命子ども絵画コンクール」に普段の4倍もある大きな画用紙にダイナミックに描き、出展しました。一段落したコーナーでは赤・緑・白の絵の具を混ぜ、ピンク・黄緑色を作ると「不思議だね～」と目をキラキラ輝かせたり、色鉛筆やろうそく、絵の具等を使ってのはじき絵に興味深々。誕生児へのネックレス作りも盛んに取り組んでいました。又迷路遊びを通して正しい鉛筆の持ち方、姿勢等に気を配っていきたくです。今後も様々な素材を使って絵を描く楽しさを体験したいと思います。

造形のコーナー・・・梅雨に入ると、多くの子どもたちがカップやペットボトルのキャップを使って、かたつむりを思い思いに作る姿が見られました。また、てるてる坊主やアジサイなど季節ならではのものを製作し、雨の季節を楽しみました。6月の保育参加デーで家族の方と一緒に作った経験から、造形のコーナーでも実際の時計を見ながら、数字や針を自分で書いたり、のりで貼りつけたりして、世界にたった一つのすてきなふりこ時計や腕時計を作りました。七夕保育参加デーでは、お母さんとハサミやのりを使いながら、七夕飾り作りを楽しんだ後も、造形のコーナーにある笹に、すてきな貝がら・ちょうちん・切り紙を飾るなど、引き続き楽しむ姿が見られました。様々な大きさの紙で切り紙を経験し、なつまつりのための「うちわ」も京けち染めをした和紙を使って作りました。四角や三角、ハートなど・・・様々な模様になるよう考えながら作る子や、切ったあとの形を見て、嬉しそうな表情を見せる子など、少しかたくて切るのが難しい和紙でしたが、どの子も一生懸命作り上げる姿がありました。最近では、クッキングコーナーでかき氷が始まったこともあり、かき氷・アイスクリーム・風鈴など、夏ならではのものを作り、保育室やコーナーに飾って盛り上げてくれています。日々の製作やうちわ作りでも、小さいお友だちを気遣い、手伝ってあげる子どもたちの姿も多く見られましたので、これからも子どもたちのこのような姿を大切に、感謝の気持ちを伝えながら、製作を楽しんでいけるようにしていきたいです。

ごっこコーナー・・・当初慣れない園生活に不安な表情を浮かべていた新入児たちも、在園児とともに太陽の部屋を訪れる中で次第に「僕・私もこんな遊びがしてみたい」という気持ちを持ってコーナー遊びの時間を過ごす姿が見られるようになってきました。そんな新しいお友だちに、こどものもりの先輩として優しくお世話をしてくれる在園児たちは、女の子はドレスや髪飾りを身につけてにこにこ鏡を覗き込んだり、男の子はお父さんやヒーローになりきったりと、思い思いのイメージを体全体で表現しながら遊ぶ姿があり、その様な姿が新入園児の憧れの対象となっているようです。また、そんなごっこ遊びの中でも、5月に経験した内科検診がきっかけとなり、その翌日には子ども自身がお医者さんや看護師さんになりきって、太陽の部屋の一角を病院に見立てて“お医者さんごっこ”を楽しむ姿がありました。その中では、造形コーナーへ足を運び“こどものもりびょういん”の看板を作ってくれる子、また、お人形を抱いて優しく看病をしてくれる子など、それぞれが自分の「やってみよう」の気持ちを遊びに発展させながらも、そのイメージを共有して、コースや年齢を越え、お友だちと一緒に遊ぶことを楽しむ姿が見られるようになりました。引き続き、子どもの発想を大切に、子どもたちの“やってみよう”を実現できるコーナーにしていきたいです。

表現のコーナー・・・日本の三大杉と言われている「飢肥杉(おびすぎ)のカプラ」が、新しく仲間入り。以前見学にいらした宮崎県日南市の吾田幼稚園の園長先生から送られてきたものです。そして、楽しく遊べるようにとおれんじコースのこぼしやかえでさんのお父様にケースを注文。このカプラで、家や高い塔を作ったり、道路を作って街にしたりと友だちと一緒に遊びを考えながら発展しています。片付けもケースの中に一つ一つきちんと並べ上手にしまっています。また、園庭では七夕保育参加で盆踊り踊ったことをきっかけに音楽がかかると、小さなちゅうりっぷ組さんが真っ先にやってきて大きい子の輪の中に入り盆踊りをしたり、時にはねじり鉢巻で太鼓をたたき、みんなで盛り上げていました。太鼓のリズムが難しく、音楽をよく聞くとたたきやすいことを知らせると、どの子も耳を澄ませながら体全体でリズムを取ってたたいていました。和太鼓という楽器に触れたことをきっかけに、これからはたくさんの楽器に触れる機会を作っていきたいです。



クッキングのコーナー・・・豊作だった梅で、梅ジャムや梅ジュース、梅干と梅尽くだった6月。皆で作った梅ジャムは、リッツやホットケーキ、パンにのせたりしておいしく味わいました。子どもたちも大好きな梅ジャムを今年はお父様とお母様とも一緒に味わうことができ「これは梅ジャムだよ」と得意げに教えてあげる子どもの姿が見られるなど、一緒に味わえることをどの子もとても喜んでいました。7月に入り、昨年度の年長児が植え、皆で収穫したジャガイモの料理を子どもたちと相談し人気のポテトサラダ(畑のきゅうりをいれて)やポテトチップス風にして味わい、皆で掘ったジャガイモということで積極的にクッキングをしにきた子どもたちでした。又、畑のトマト(ミニトマトにブラクトマト)やきゅうりも食べ頃をむかえ、朝収穫したばかりの新鮮野菜を子どもたちと一緒に包丁で切って、味わう事で普段は野菜が少し苦手な子も「おいしいね」と口にしている姿が見られていました。ジャガイモをはじめ、きゅうり、トマトと包丁を使う機会が多くあり包丁の使い方も少しずつ覚えてきた子どもたちです。夏期保育に入り待ちに待ったかき氷屋さんがオープン。冷たい氷を味わいながら一休み。「今日は何味かな?」と楽しみに食べにくる子や、「カキ氷屋さん、やりたい!」とハッピーを着ながら「カキ氷いかがですか?」と張り切ってお店屋さんになる子とそれぞれにこの夏の暑さを楽しんでいます。今後も時期を逃さず、旬のものを食べることで季節を感じ取れるような体験をたくさんしていきたいです。